公益社団法人日本スカッシュ協会　委員会/専門部会　中長期計画 2021～2026

規則公認委員会

⑴明文化されていない規則・ルールの洗い出し。
⑵事務局や他の委員会と連携しながら規則・ルールの文章化。
⑶スポーツ団体ガバナンスコード適合性審査と自己説明に向けた調整

選手強化委員会

現在、常務理事、選手強化委員長としてスカッシュ協会の運営に携わっていますが自分の現役選手の頃からスカッシュ強豪国には市営、国営等の公共のスカッシュセンターがあり身近にスカッシュをプレー出来る環境が整っています。選手強化には協会独自のコートやスカッシュ専門施設と契約し強化選手達(ジュニアは夕方、シニアは夜)が常に練習出来る環境作りが不可欠でありその目標に向けた取り組みが早急に必要と考えます。実現するには資金面の問題ですが北澤会長の下、役員の皆様の力を借りて実現計画を立てたいと思います。

・シニアナショナルチーム

今後 10 年（中期的目標）は　男子：アジア NO.1 と世界選手権 TOP８　女子：アジア NO.1 と世界選手権 TOP４です。近年、ナショナル選手の世代交代が進んでいますが、実力は間違いなくこの 20 年を比べても段違いに上昇していると感じます。代表選手達もこの 10 年は小学生からの競技スタートが殆どで、低年齢化しました。また、海外での派遣回数や海外でのプレー回数が増えたことで競技力の向上だけでなく、環境への適応力が格段にあがったことで世界との差が縮まったと考えられます。これにより、まずアジア NO.1 の香港、マレーシアを目標にアジア制覇というのが今後 10 年の具体的な目標になってくると思います。
その為に今後必要となってくることはより多くの海外派遣やトレーニングを行える強化資金の増額とナショナル選手達が集まって練習できるナショナルコートの設立が強化ビジョンの目標達成には不可欠な要素であると思いますので、組織全体で取り組んでいきたいと思います。

・ジュニアナショナルチーム

「アジアにおいてトップと互角に戦える選手の育成」U19・U17 の選手達は個人戦を、次世代の U15 の選手達はチーム戦をターゲットに以下のことに取り組んでいく。
①海外大会への派遣
②海外大会参加へのサポート
＊国内外大会のパフォーマンスへの評価とフィードバックと個人コーチとの共有

「シニア代表で活躍できる選手の育成」
ジュニア期に成果優先になりすぎず正しい経験を積む時期としで考えて、以下の取り組みを行なっていく。
＊代表選手に相応しい人間力の向上
＊アスリートに必要な知識を身につける
＊ジュニア期に必要なフィジカル要素の強化

・スカウトチーム

目的…強化指定、強化指定候補選手になり得る選手の発掘、育成

活動…低年齢層のスカウト選手におけるフィジカル・スキルの強化を行うことで、強化指定及び強化指定候補選手の能力底上げにつなげ、また低年齢からナショナルを意識させた練習を行うことで選手活動をする上での意識を醸成していく。

今後スカウトチーム主催のジュニア大会を開催し、ビギナーでも参加しやすい環境を作ることで幅広く選手を見て発掘に繋げていく必要がある。

現在のU-11がU-17になった際にナショナルを担うことを目指し上記活動を行っていく。

コーチ委員会

選手強化部門　⇒

『選手強化に必要なあらゆる分野に精通したコーチの育成とそのためのコーチの活動をサポートしていく』

普及部門⇒『スカッシュの楽しさと正しい情報を多くの人に伝えていけるコーチの育成』

①コーチ育成のシステムとプログラムのアップデート

・テキストと講習会の内容をより実用性の高いものに作り直していきます

・スカッシュを始める方からジュニア、アスリートまで対応できるコーチングノウハウの構築に取り組んでいきます

・WSFとASFにリンクさせながらも、JSA独自の項目を含めたレベル２コースを作ります

・公認資格を有する方々に対するフォローアップ活動を、コーチングに必要な様々な分野において行っていきます

②スカッシュ普及活動への積極的な協力体制の確立

・スカッシュ普及活動において、委員や公認コーチの派遣などの協力体制を作っていきます

・地域やスポーツ施設からのコーチ派遣やノウハウ提供に応えていけるプログラム作成やスタッフ及びコーチの育成に取り組んでいきます

③委員会内の定期的なリフレッシュと外部の声に対する傾聴姿勢の強化

・委員会メンバーを定期的に見直していき、今後のコーチ部門の活動に必要な人材の起用を積極的に行っていきます

・公認資格を有する方々、または現場で活躍されているコーチの方々の声に耳を傾け、コーチに必要な情報発信やコーチングスキル向上のための活動や環境を作っていきます

競技委員会

競技委員会の中長期案件としての優先課題はコロナ対策、対応に尽きると考えています。感染の拡大状況とワクチン接種による収束状況の両面を監視し、スカッシュからはクラスターの発生はさせないという強い理念の下で各大会の感染防止対策のチェック、必要に応じたルールの改訂、ガイドラインの見直しなどを行って参ります。このため今期から実務的に手伝ってもらえる人材２名を増員し、毎週～隔週オンラインにて打ち合わせながら活動を始めています。

総務委員会

総務委員会は公益社団法人スカッシュ協会が加盟および関連している国内外の組織との連携をとり、案件に応じ、その情報や対策を運営に的確に反映させる任務を継続的に進めていきます。また各委員会の運営に応じて決定機関である会議の招集と開催を担っています。その他、財務、アスリート委員会の活動も担っていますが、アスリート委員会に関しては、この５年以内に独立を促進したいと考えています。

地区支部対策委員会

通年のテーマとして、常務理事会と地区支部をつなぐ役割を果たしていきたいと思います。短期（1 年）テーマとしては、コロナ禍における大会開催に関する課題・解決策の共有を行い、中期（３年）テーマとして、会員数拡大のための施策の検討を行います。長期の（5 年）テーマとして各県のスポーツ協会への加盟を目指し、スカッシュ施設の拡大にチャレンジしたいと思います。

広報委員会

スカッシュの情報を得るために今一番見られている web サイトは JSA の HP です。愛好家の方も、初めての方もHP を見てくれていることはデータをみて一目瞭然でした。広報としてここのHP の流入を増やすとともに、より見やすく使いやすいものにしていくように努めます。私の仕事はスカッシュを多くの人に知っていただくことです。組織内の IT 化を進めながらより有益な情報を発信できるように頑張って参ります。

全日本学生スカッシュ連盟

大学生のスカッシュ競技人口をまずは 10 年ほど前の規模感に戻したいと考えています。サークル入会者数を増やすだけでなく、既存の入会者の中でも競技レベルでスカッシュをする学生を増やすことも課題です。そこで、①新人戦で終わらせないための 1 年生へのアプローチ(一般大会への斡旋、学連主催の新大会の開催)　②既存に囚われない新歓方法の模索、試合速報だけでない学連の積極的な学生スカッシュの広報、を実施していきたいと考えています。

普及渉外委員会

（普及）

エアースカッシュによる普及として、現在 5,208 名の参加数を 2025 年までに 10,000 名を目指します。

地区支部対策委員会とともに日本スポーツ協会準加盟、加盟を目指します。

（渉外）会長中心に、役員が協力して財政基盤の強化を実現する為に活動していきます。

レフリー委員会

「レフリー全体のスキルアップを目指す」

かねてより、PSA のレフリーのスキルと国内とでは、レフリーの技術の差があることが、課題として取り上げてこられました。また現在、各地区支部で行われていた審判講習会の開催が、コロナの感染予防の観点から難しくなっています。以下を課題として取り組んで行きます。

①オンラインでの審判試験
②有資格者のスキルアップを目指した講習会
③今後のレフリーライセンスのあり方
④試験内容の見直し

特に、前述している有資格者に対するスキルアップを中心に　オンラインでできることを考え準備しています。なぜならば、これまで審判の資格を取っていても、その後のフォローアップの機会が多いとは言えませんでした。これが原因で、実際に試合で審判をする時、不安を募らせる方が多いのではないだろうか考えました。今後は、ルール改正が行われた時はもちろん、有資格者全員のフォローアップができる場を多く設けることで、常に審判技術の向上や更新ができる環境を作りたいと思います。

　また、これからスカッシュを始めていく方々にも、ルールや試合の進め方をわかりやすく理解できるようにすることで、試合に出てみたいと思っていただけるよう、裾野を広げる活動も同時に進めていきたいと考えております。